

## ．教育本部執行方針（案）

### 1．スキ - 関連

教育本部各事業は関係各位のご協力を頂き、無事事終了することができました。心より感謝申し上げます。

各事業でのご指摘及び反省事項は謙虚に受け止め、改善に取り組んで参ります。

今年度は「各事業の見直し」に取り組み、各事業の充実を図っていきたいと考えております。また、スノ - ボード事業を教育本部に加え、指導者育成、有資格者の積極的行事参加の推進、選手強化に努力して参ります。以下取り組みについて申し上げます。

各事業の取り組みについて

- ・指導員会主催の「特研」を教育本部の傘下へ繰り入れます。
- ・昨年の活性化委員会の答申を受け、研修会、講習会等の女性班の設定など運営について見直しを図ります。
- ・レベルアップ講習会は将来とも県下のスキー普及拡大に寄与すると思われ、級別テストの同時開催などを検討し、参加者を増やす努力を致します。
- ・検定員クリニック及び検定員検定のレベルアップのため、1月の五竜 行事で級別テストを開催し、検定員の資質の向上に取り組めます。
- ・各事業について教育本部の各委員会で継続して改善に努めます。特に事業効率の向上について推進致します。
- ・SAJ で進めている生涯スポ - ツスキ - への取り組みを検討します。

選手強化と育成及びスキ - 技術選手権大会の運営について

- ・全日本スキ - 技術選手権の男女決勝進出を目標に、従来の強化合宿の内容を見直しし、選手のレベルアップと選手発掘に努めます。
- ・神奈川県・千葉県スキ - 連盟共催のスキー技術選手権は技術交流等大きな成果をあげており、更にスム - スな運営のため、運営の方法について見直しします。
- ・環富士山大会は共催に千葉県を加え、参加者が280名を超える大会となりました。更に底辺の拡大と共に技術交流を図り、各県相互の選手育成に努めます。
- ・20代の選手が少なく若手の選手育成が急務です。プライズテスト等、各事業の中で参加を呼びかけ、また各協会にご協力を頂き選手発掘に努めます。

北海道行事について

- ・総務本部北海道スキ - ツア - 企画委員会と連携しながら企画がマンネリ化しないよう見直しを行い、昨年規模以上の集客行事となるよう内容を検討します。北海道という地域性を生かせる企画を検討し参加者に喜ばれる行事をします。

ハンディキャップスキー講習会

- ・ハンディキャップスキーの講習会、級別テストはHC委員会が中心となり実施しております。研修会参加の指導員の協力を得て大きな成果を残しました。今後もHC委員会の行事運営を後押しし連携を図ります。

教育本部専門委員の活動について

- ・競技本部と連携し、教育本部専門委員を競技大会に派遣し、競技大会運営など幅広い

分野で経験させ、指導に活かせるようにします。

- ・教育本部専門委員が競技大会、技術選へ積極的に参加するよう奨励し、各個人のレベルアップを図ります。
- ・千葉県と実技研修会行事で講師派遣を行い、他県の運営の実態把握と講師交流を図ります。

## 2. パトロ - ル関連

最近身近でもスキー事故の報告を聞くようになりました。これが安全への意識の欠如なのか、技術への対応不足・道具の使いこなしの未熟さが原因か、はたまたスピードが格段にアップしたのか見極める必要はありますが、少なくとも安全に滑らせる指導・教育は今まで以上にやらなければとならないと痛感しています。スキー連盟として一個人のスキルアップを見届けるわけにはいきませんが、その人を指導する対場にある団体・指導者への啓蒙は無限にできる可能性を持っています。

今年度からは、今までとは違った方法での啓蒙・アピールを考えて行きます。専門委員（含む委員長）の刷新も含めて前向きに活動していきます。

## 3. スノ - ボ - ド関連

教育本部事業では指導員資格の取得、研修会、級別テスト、技術選手権大会があります。資格面の整備はかなり進みましたので、個別事業運営の充実と組織化へ更に努力いたします。

以上